

3 年次		選択 3 1				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	物理	3	2 展開		高橋 賢司	
教科書	高等学校改訂物理（第一学習社）					
補助教材	アクセスノート物理（実教出版）					
目標	科目	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 （２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （３）物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。		物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動		・ 考查問題 ・ 授業の中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業の中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅱ章 波動	4 円運動と単振動・万有引力 1 正弦波 3 光	◎	◎	○	・ 単振動をする物体の運動の様子やその物体に働く力などを図や式を使って考えることができる。 ・ 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。 ・ 正弦波の伝わり方と式での表し方について理解する。 ・ 光の伝わり方について理解する。 ・ 光のスペクトルや光の散乱について理解する。 ・ レンズと球面鏡によってできる像について、図と式を使って考えることができる。 ・ 光の回折と干渉について図と式を使って考えることができる。
前期中間考査							
6-8	18	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位	◎	◎	○	・ 気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・ 気体分子の圧力と気体分子の熱運動を理解する。 ・ 気体の内部エネルギーについて、熱力学の第 1 法則に関連付けて理解する。 ・ 気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を考えることができる。 ・ 静電気の種類と性質について理解する。 ・ クーロンの法則と電界について理解する。 ・ 電界と電位の関係を理解する。 ・ コンデンサーの性質を理解する。
前期期末考査							
9-11	33	第Ⅲ章 電気と磁気	2 電流 3 電流と磁場 4 電磁誘導と交流	◎	◎	○	・ オームの法則とジュール熱について理解する。 ・ 直流回路の性質を理解する。 ・ 半導体の性質とその利用について理解する。 ・ 磁界に関するクーロンの法則と、磁界と磁力線について理解する。 ・ 電流がつくる磁界の様子を理解する。 ・ 電流が磁界から受ける力について理解する。 ・ ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動について考えることができる。 ・ 電磁誘導とその法則について理解する。 ・ ローレンツ力と誘導起電力、電磁誘導とエネルギーの保存について考えることができる。 ・ 自己誘導とコイルの性質について理解する。 ・ 交流について現象や法則を理解する。 ・ 電気振動と電磁波の性質について理解する。
後期中間考査							
12-3	30	第Ⅳ章 原子	1 電子と光 2 原子と原子核	◎	○	○	・ 電子の電荷と質量について理解する。 ・ 光の粒子性について理解する。 ・ X線の性質について理解する。 ・ 粒子の波動性について理解する。 ・ 原子の構造及びスペクトルの関係について理解する。 ・ 原子核とその崩壊、放射線の関係を理解する。 ・ 原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ・ 素粒子の存在と宇宙について理解する。
(後期期末考査)							

合計 105

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	化学	4	選択授業		岩谷 義久	
教科書	数研出版 新編化学					
補助教材	啓林館 センサー総合化学 、 新編化学準拠ノート 教科書の整理					
目標	科目	化学的な事物・現象に関わり,理科の見方・考え方を働かせ,見通しをもって観察,実験を行うことなどを通して,化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する技能を身に付けている。		観察,実験などを行い,科学的に探究している。		化学的な事物・現象に主体的に関わり,科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	定期考査 課題		定期考査 レポート		定期考査 課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達目標
4-5	32	第1編 物質の状態	第1章 粒子の結合と結晶 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 第4章 溶液	◎	◎	◎	・物質の状態とその変化、溶液と平衡について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ・物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。 ・物質の状態と平衡について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		前期中間考査					
6-8	24	第2編 物質の変化	第1章 化学反応とエネルギー 第2章 電池と電気分解 第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡	◎	◎	○	・化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ・物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。 ・化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		前期期末考査					
9-11	44	第3編 無機物質 第4編 有機化合物	第1章 非金属元素 第2章 典型金属元素 第3章 遷移元素 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物	◎	◎	○	・典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解している。 ・遷移元素の単体と化合物の性質を理解している。 ・有機化合物、高分子化合物について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 ・有機化合物、高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。 ・無機物質や有機化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		後期中間考査					
12-3	40	第5編 高分子化合物	第1章 高分子化合物の特徴 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物	◎	◎	◎	・合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解している。 ・天然高分子化合物の構造や性質について理解している。 ・高分子化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		(後期期末考査)					

合計 140

3 年次		選択 3 1				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者		
理科	生物	3	選択授業	加藤 友秋 ・ 森 八洲		
教科書	改訂版 生物（数研出版）/310					
補助教材	三訂版 リードlightノート生物（数研出版）					
目 標	科 目	動物・植物の初期発生、動物の感覚器・効果器とそれらを統合する神経系の仕組みとはたらきを握る。 集団としての生物と環境との関わり合いを学び、地球環境の大切さを理解する。 生物の進化と系統について知識を深める。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	生物体の構造や仕組み、代謝について分子レベルで理解しているか。生態系や生物の進化、分類について系統的に理解しているか。		生命現象や仕組みについて、タンパク質・遺伝子に基づいて考えることができるか。生命現象を、タンパク質・遺伝子に基づいて説明できるか。		準備をして授業に臨むことができているか。疑問が生じたとき、自ら調べたり、発問したりできているか。観察・実験に主体的に参加できているか。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・日常的な学習活動や課題への取組状況 ・授業への参加態度。 ・観察・実験授業・レポート提出	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第4章「生殖と発生」 第5章「動物の反応と行動」	4. 動物の配偶子形成と受精 5. 初期発生の過程 6. 細胞の分化と形態形成 7. 植物の配偶子形成と発生 1. ニューロンとその興奮 2. 刺激の受容 3. 情報の統合	◎	◎	◎	・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を理解する。 ・細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象、前後軸の形成、形態形成を調節する遺伝子について理解する。 ・植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。 ・ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に学習し理解する。 ・受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を理解する。
前期中間考査							
6-8	18	第5章「動物の反応と行動」 第6章「植物の環境応答」	4. 刺激への反応 5. 動物の行動 1. 植物の生活と環境反応 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 環境の変化に対する応答 3. 花芽形成・結実の調節	◎	◎	◎	・効果器に関しては筋肉を中心に学習し理解する。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと理解する。 ・植物は成長を調節するなどして環境に反応していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。
前期期末考査							
9-11	33	第7章「生物群集と生態系」	1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性	◎	○	◎	・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を理解する。 ・生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・いくつかの生態系の各栄養段階の関係について理解する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
後期中間考査							
12-3	30	第8章「生命の起源と進化」 第9章「生物の系統」	1. 生命の起源と初期の生物の変遷 2. 多細胞生物の変遷 3. 進化のしくみ 1. 生物の系統 2. 生物の多様性	○	◎	◎	・生命の誕生や生物の進化について、そのしくみを理解する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても理解する。 ・生物が系統によって分類できることを理解する。その際、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても知る。 ・個々の分類群について、その概要を理解する。
(後期期末考査)							

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	生物	4	選択授業		加藤 友秋	
教科書	改訂版 生物（数研出版）/310					
補助教材	三訂版 リードlightノート生物（数研出版）					
目標	科目	細胞を作っているタンパク質の構造や遺伝子、またそれによって引き起こされる光合成や呼吸といった生命現象の概念を把握する。集団としての生物と環境との関わり合いを学び、地球環境の大切さを理解する。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぶことができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	生物体の構造や仕組み、代謝について分子レベルで理解しているか。生体系や生物の進化、分類について系統的に理解しているか。		生命現象や仕組みについて、タンパク質・遺伝子に基づいて考えることができるか。生命現象を、タンパク質・遺伝子に基づいて説明できるか。		準備をして授業に臨むことができるか。疑問が生じたとき、自ら調べたり、発問したりできているか。観察・実験に主体的に参加できているか。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・日常的な学習活動や課題への取組状況 ・授業への参加態度。 ・観察・実験授業・レポート提出	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	第1章「細胞と分子」 第2章「代謝」	1. 生体を構成する物質 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造 5. 物質輸送とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化	◎	◎	◎	・タンパク質について、基本的な構造を学習したうえで、酵素など、その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解する。 ・細胞小器官、生体膜、細胞骨格など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。 ・呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。 ・窒素同化の概要についても理解する。
前期中間考査							
6-8	24	第3章「遺伝情報の発展」 第4章「生殖と発生」	1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. バイオテクノロジー 1. 遺伝子と染色体 2. 減数分裂と遺伝情報の分配 3. 遺伝子の多様な組み合わせ 4. 動物の配偶子形成と受精 5. 初期発生の過程 6. 細胞の分化と形態形成 7. 植物の配偶子形成と発生	◎	◎	◎	・DNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。その際、遺伝情報の変化についても理解する。 ・遺伝子の発現調節の概要を、転写レベルの調節を中心に学習する。 ・遺伝子を扱うバイオテクノロジーの原理と有用性を理解する。 ・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 ・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を理解する。 ・細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象、前後軸の形成、形態形成を調節する遺伝子について理解する。 ・植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。
前期期末考査							
9-11	44	第5章「動物の反応と行動」 第6章「植物の環境応答」	1. ニューロンとその興奮 2. 刺激の受容 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動 1. 植物の生活と環境反応 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 環境の変化に対する応答 5. 花芽形成・結実の調節	◎	○	◎	・ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に、効果器に関しては筋肉を中心に学習し理解する。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと理解する。 ・植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。
後期中間考査							
12-3	40	第7章「生物群集と生態系」 第8章「生命の起源と進化」 第9章「生物の系統」	1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性 1. 生命の起源と初期の生物の変遷 2. 多細胞生物の変遷 3. 進化のしくみ 1. 生物の系統 2. 生物の多様性	○	◎	◎	・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を理解する。 ・生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・いくつかの生態系の各栄養段階の関係について理解する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。 ・生命の誕生や生物の進化について、そのしくみを理解する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても理解する。 ・生物が系統によって分類できることを理解する。その際、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても知る。 ・個々の分類群について、その概要を理解する
(後期期末考査)							

3 年次		選択 3 4				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	地学基礎	2	選択授業		高橋 賢司	
教科書	改訂 地学基礎（東京書籍）					
補助教材	ニューサポート 改訂 地学基礎（東京書籍）					
目標	科目	私たちの生活の場である自然環境に関して、物理的な側面や化学的な側面、そして生物学的な側面から捉え、多角的に考え、表現することができる。日本列島では、自然災害が比較的に多いことから、地震、津波、火山、集中豪雨についての理解を深め、自然災害に対して正しく対処することができるよう、自ら学んだことを実生活に還元することができる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	・地学は、私たちの生活の場である自然環境に関する科目であり、物理的側面、化学的側面、生物学的側面を含んでいて、様々な要素が組み合わさることで、自然環境ができていていることを理解することができる。		地学を通して学んだ学習内容や知識を、繋がりを持たせて（関連付けて）捉え、地学の知識や内容を活用することができる。		・自然災害から、正しく身を守るために、防災の知識を持ち、地学を通して学んだことを活かすことができる。	
評価の方法	・ 考査問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考査問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業の中での発言や発表		・ 考査問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	①宇宙の構造と進化 ②太陽と惑星	・ビッグバンと宇宙の誕生 ・天体の誕生 ・銀河と天の川銀河 ・銀河の集団と宇宙の大規模構造 ・太陽系の誕生 ・太陽系天体の特徴 ・太陽	◎	◎	○	・ビッグバンと宇宙の誕生について、理解を深める。 ・天体の誕生、恒星としての太陽の進化、銀河と天の川銀河、銀河集団と宇宙の大規模構造について正しく理解している。 ・「宇宙の晴れ上がり」の後、ガスが重力（万有引力）によって集まり恒星が誕生した流れを説明することができる。 ・惑星が形成されるとき、原始太陽からの距離によって、性質が異なる2種類の惑星ができ、地球型惑星と木星型惑星の違いについて説明することができる。 ・なぜ地球型惑星と木星型惑星では、惑星の特徴が異なるのか、興味関心を持って、取り組むことができる。
		前期中間考査					
6-8	12	③地層や岩石の観察 ④生命の変遷	・地層の形成 ・地質構造 ・地層と古環境 ・地球史の最初期 ・先カンブリア時代 ・古生代 ・中生代 ・新生代	○	◎	○	・地層累重の法則、示準化石、示相化石、地層の対比等について説明することができる。 ・放射性元素による年代測定など半減期の見方を理解し、どのような場面で利用されているのか興味関心を持ち、学習活動にあたることができる。 ・無脊椎動物が爆発的に出現し多様化したカンブリア爆発について説明することができる。ペルム紀末の大量絶滅を経て、中生代には被子植物が登場し、恐竜やアンモナイトが繁栄したことを説明することができる。
		前期期末考査					
9-11	22	⑤大地とその動き ⑥地震と火山	・地球の形と大きさ ・地球の構造 ・地球内部の動き ・プレート境界 ・地震のメカニズム ・海溝の地震、活断層の地震 ・火山活動の多様性 ・火成岩の観察	○	◎	◎	・地球が球体である事実を、様々な視点や根拠から説明することができる。 ・プレートテクトニクスや、ブルームテクトニクスについての理解を深め、説明することができる。 ・3種類あるプレートの境界について理解を深め、その違いについて説明することができる。 ・地球の自転の影響も考慮した地球の形が、赤道部分が長い回転楕円体であることを説明することができる。 ・身近な現象の中にある「対流」を理解し、マンツルの動きと関連付けることができる。 ・地震のメカニズムや火山活動の多様性について理解を深める。
		後期中間考査					
12-3	20	⑦大気と海洋 ⑧日本の自然の恵みと防災 ⑨地球環境の考え方	・地球の大気 ・地球の熱収支 ・大気の大循環 ・海水とその運動 ・日本の自然環境の特徴 ・自然の恵み ・地震による災害と防災 ・火山による災害と防災 ・気象災害と防災	◎	○	○	・大気の層構造は、温度の高度変化に伴い定まっていることを理解し、各層の役割等も含めて説明することができる。 ・海水温度と水深の関係についても理解し、説明することができる。トリチェリの実験について説明することができる。 ・「炭素循環」についての理解を深め、説明することができる。 ・地球環境問題に対応するためこれからの社会には持続可能な発展が求められていることを理解し、できることを考え行動することができる。 ・日本は狭い国土の中に多様な自然環境を持っており、さまざまな恵を与えてくれる。例えば、地熱発電等について自ら調べ、エネルギー問題等の発展的な内容について調べ、自分の意見を持つことができる。
		(後期期末考査)					

合計 70

3 年次		選択 3 4			
教科	科目	単位数	学級編成		担当者
理科	理科応用	2	2 展開		松浦 孝志・森 八洲
教科書					
補助教材		科学と人間生活 補充テキスト&問題集 化学編・物理編（数研出版）			
目 標	科 目	自然の事物・現象や科学技術について興味・関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
	資 質	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
	・ 能 力	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	・ 授業態度 ・ 授業での気づき、発問 ・ ワークシート等の提出 ・ ワークシートの記述内容 準備や操作の状況 ・ 考査		・ 授業態度 ・ グループ討論、発表の状況 ・ ワークシートの記述内容 ・ 考査		・ 発問に対する解答 ・ ワークシートの記述内容 ・ 小テスト ・ 考査

年間計画

◎特に重視する。○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	物質の構成と化学結合	- 物質の構成 - 物質の構成粒子	◎	○	◎	- 物質が原子で構成されており、原子は陽子・電子・中性子からできていることがわかる。 - 価電子の数が原子やイオンの性質と関係していることがわかる。
前期中間考査							
6-8	12	物質の構成と化学結合	粒子の結合	◎	◎	◎	物質を構成している粒子の結合とその物質の性質を関連付けて考えることができる。
前期期末考査							
9-11	22	物質の変化	物質と化学反応式	◎	◎	◎	- 粒子の重さは$^{12}\text{C}=12$を基準とした相対値で表すことがわかる。 - 物質の量（個数、質量、体積等）をmolと関連づけることができる。 - 化学反応による量的関係について理解し説明ができる。
後期中間考査							
12-3	20	運動とエネルギー	- 運動の表し方 - 運動の法則	◎	◎	◎	様々な現象における運動について、理解し説明ができる。
後期期末考査							

合計 70

3 年次		選択 3 4				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	物理基礎発展	2	選択授業		吉田 龍哉	
教科書	なし					
補助教材	新編センサー 物理基礎 改訂版（啓林館）					
目標	科目	物理基礎で学んだ物理の基本的な概念や原理・法則について理解を深め、観察や実験などを通して、理科の見方・考え方を働かせ、日常の現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	・学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解できたか。 ・正しい手順で観察・実験を行うことができたか。		・課題に対して、科学的・論理的に思考し、判断しているか。 ・課題について自らの考えをわかりやすく伝えることができたか。		・意欲的に課題を追求することができたか。 ・自ら考え、見通しを持って主体的に観察・実験に取り組んだか。	
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考查問題 ・ 授業中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか。 ・ ワークシートなど提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	I 物体の運動	1 運動の表し方 2 力と運動の法則	◎	◎	○	・ 具体的な運動について、観察を通して速度・加速度の関連性の理解を深める。 ・ 落体の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解を深める。 ・ 物体にはたらく力の具体的な例を実験等により確かめる。 ・ 力のつり合いを図と式を使って考える。 ・ 力と速度・加速度の関連性について、具体的な運動を通して理解を深める。
前期中間考查							
6-8	12	II エネルギー	1 仕事と力学的エネルギー 2 熱と温度・仕事	○	◎	○	・ 物理における仕事について理解を深める。 ・ 仕事とエネルギーの関連性を具体的な現象を通して理解を深める。 ・ 熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・ 熱とその量及びその移動について式を使って考える。 ・ 熱とエネルギーの関連性を実験を通して理解を深める。
前期期末考查							
9-11	22	III 波	1 波の性質 2 音波	○	◎	◎	・ 波の性質や波が伝わる際の媒質の変化について、実験・観察を通して理解を深める。 ・ 音波の具体的な現象を、実験・観察を通して理解を深める。 ・ 気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。
後期中間考查							
12-3	20	IV 電気	1 電荷・電流・磁場	◎	○	○	・ 静電気と電子について理解する。 ・ 電流、電圧、電気抵抗の相互の関係を理解する。 ・ 電流の種類と電磁波について理解する。 ・ 様々なエネルギー資源が、使いやすい形態に変換されるしくみを理解する。
(後期期末考查)							

合計 70

3 年次		選択 3 4、3 5				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者		
理科	化学基礎発展	2	選択授業	松浦 孝志 岩谷 義久		
教科書	数研出版 新編化学基礎					
補助教材	数研出版 大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎					
目 標	科 目	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもった振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	定期考査 課題		定期考査 レポート		定期考査 課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成 粒子	各単元の復習 問題演習	◎	◎	◎	・各単元の内容が理解できる。 ・基本的学習内容を説明できる。 ・共通テスト程度の問題を解答できる。
前期中間考査							
6-8	12	第3章 粒子の結合	各単元の復習 問題演習	◎	◎	○	・各単元の内容が理解できる。 ・基本的学習内容を説明できる。 ・共通テスト程度の問題を解答できる。
前期期末考査							
9-11	22	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応	各単元の復習 問題演習	◎	◎	○	・各単元の内容が理解できる。 ・基本的学習内容を説明できる。 ・共通テスト程度の問題を解答できる。
後期中間考査							
12-3	20	第3章 酸化還元反応	各単元の復習 問題演習	◎	◎	◎	・各単元の内容が理解できる。 ・基本的学習内容を説明できる。 ・共通テスト程度の問題を解答できる。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 5				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
理科	生物基礎発展	2	選択授業		森 八洲・吉田龍哉	
教科書	東京書籍 改訂 生物基礎					
補助教材	大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物基礎					
目標	科目	1 年次で学習した「生物基礎」の内容を、全体を俯瞰する形で体系的に捉え直す。各章の関連性の理解を深め、問題演習を通して、総合的に生物基礎を捉える。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	生命現象について、概念や原理を理解し身につけることができたか。 観察・実験の正しい手順を理解しているか。 応用・総合的な問題に対応できるか。		生命現象について、資料やデータから内容を読み取り、まとめることができたか。 自分の考えを他者にわかりやすく記述することができるか。		生命現象を日常生活と結びつけ、関心を持って学習に臨めたか。 日常生活や社会的な課題を、学習内容を生かし解決に向けて取り組めたか。	
評価の方法	定期考査 課題		定期考査 課題		定期考査 課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	1 編 1 章 生物の多様性と共通性 1 編 2 章 生命活動とエネルギー 2 編 1 章 生物と遺伝子 2 編 2 章 遺伝情報の分配 2 編 3 章 遺伝情報とタンパク質の合成	各単元復習・問題演習	◎	◎	◎	・各単元の重要事項が系統的に理解できる。 ・基本語句が理解出来、説明できる。 ・他教科で学習したことも応用して問題を考える事ができる。 ・理解する為に工夫して図式化する事ができる。 ・難問であっても最後まで努力して回答しようとする。
前期中間考査							
6-8	12	3 編 1 章 体内環境 3 編 2 章 体内環境を維持する仕組み 3 編 3 章 免疫	各単元復習・問題演習	◎	◎	◎	・各単元の重要事項が系統的に理解できる。 ・基本語句が理解出来、説明できる。 ・他教科で学習したことも応用して問題を考える事ができる。 ・理解する為に工夫して図式化する事ができる。 ・難問であっても最後まで努力して回答しようとする。
前期期末考査							
9-11	22	4 編 1 章 植生の多様性と遷移 4 編 2 章 バイオームとその分布 4 編 3 章 生態系とその保全 過去問題演習	各単元復習・問題演習	◎	◎	◎	・各単元の重要事項が系統的に理解できる。 ・基本語句が理解出来、説明できる。 ・他教科で学習したことも応用して問題を考える事ができる。 ・理解する為に工夫して図式化する事ができる。 ・難問であっても最後まで努力して回答しようとする。 ・演習問題で 5 0 % 以上得点できる。
後期中間考査							
12-3	20	過去問題演習	過去問題演習	◎	◎	◎	・過去問題で 6 0 % 以上得点できる。
(後期期末考査)							

教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		化学発展Ⅱ	3	選択授業	加藤 友秋	
教科書		なし				
補助教材		レッツトライノート化学基礎Vol. 2物質と化学反応式, レッツトライノート化学Vol. 4有機化合物, 5高分子化合物（東京書籍）				
目標	科目	・身の回りの物質と物質の変化に関する化学的な概念、原理、法則を理解すること。 ・有機物や高分子化合物をよく知ることにより、医療の現場での確に判断を下すことができるようになること。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能 ＜習得＞		思考・判断・表現 ＜活用＞		主体的に学習に取り組む態度 ＜探究＞	
	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		化学の特徴について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。		化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関り、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・日常的な学習活動や課題への取組 ・グループ学習等	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	物質と量	1. 原子量 2. 分子量・式量 3. 物質と量 4. 濃度	◎	○	◎	・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質と量の単位molの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。
前期中間考査							
6-8	18	化学反応式	1. 化学反応式 2. 化学反応式とその量的関係 3. 化学の基本法則	◎	○	◎	・物質を化学式で表し、物質量を元に質量や体積や粒子の数を求めたり、化学反応を反応式で表すことができるようになる。また、化学反応の量的関係を計算したり、水溶液の濃度を求めることができるようになる。
前期期末考査							
9-11	33	有機化合物	1. 有機化合物の特徴と構造 2. 炭化水素 3. アルコールと関連化合物 4. 芳香族化合物	○	◎	◎	・有機化合物の特徴と構造について、炭素・水素・酸素・窒素・硫黄・リンなどの原子を中心として学ぶ。 ・炭化水素の基本的構造と分類、それぞれの性質について学ぶ。 ・アルコール・アルデヒド・カルボン酸・アミン・エーテル・ベンゼン環など、炭化水素関連物質について学ぶ。
後期中間考査							
12-3	30	高分子化合物	1. 天然高分子化合物 2. 合成高分子化合物 3. 高分子化合物と人間生活	○	◎	◎	・糖・脂肪・タンパク質・核酸など、生体に含まれる有機高分子化合物について、学ぶ。 ・プラスチックなどの合成高分子化合物の種類と合成反応について学ぶ。
(後期期末考査)							

3年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	3	2クラス3展開		滝沢・北辻・稲村・齋藤・久保	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材	現代高等保健体育ノート					
目標	科目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。また、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	能力	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	18		体づくり運動 選択Ⅰ 陸上競技 器械運動 ダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト 投擲、マット運動、現代的なリズムのダンス	○	◎	◎	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・自己の能力に適した種目を選び、段階的かつ継続的に練習をすすめ、自己目標を設定し記録や演技力の向上を目指す。（陸上競技、器械運動） ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。また、自主的に取り組むとともに助け合い教え合い、話し合いに貢献したり、一人ひとりの違いに応じた表現や役割を大切にする。（現代的なリズムのダンス）
			(前期中間考査)		○	◎	◎	
6-9	30		選択Ⅱ	バレーボール サッカー ソフトボール	○	◎	◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
			(前期期末考査)					
10-11	15		選択Ⅲ	バスケットボール バドミントン 卓球	○	◎	◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
			(後期中間考査)					
12-3	27		選択Ⅲ ミニバレーボール 体育理論	バスケットボール バドミントン 卓球 ミニバレーボール 豊かなスポーツライフの設計	○	◎	◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができるようになる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
			(後期期末考査)		○	◎	◎	

合計 90 ※選択Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、選択者数の関係で種目の入れ替えや変更を行う場合があります。

3 年次		選択 3 7				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	生涯体育探究	2	選択授業		齋藤・滝沢	
教科書						
補助教材						
目 標	科 目	それぞれの体力、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、生涯にわたってスポーツに親しむことができる態度を育成する。既存のニュースポーツから、さらに発展させたオリジナルのニュースポーツを開発しようとする態度を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動技術の仕組み、体力の高め方、スポーツの文化について理解しているか。自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めている。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。		生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
評価の方法	授業への取り組み（観察） ルールの遵守 基本的な個人技能		授業への取り組み（観察） 自己の課題設定 練習方法の工夫		授業への取り組み（観察） 練習方法の計画性 周囲への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	12	オリエンテーション 体づくり運動	体ほぐし運動 体力を高める運動 ジョギング	○	◎	◎	・ライフステージに応じた体力トレーニングの方法を理解して実践している。 ・グループで協力しながら、仲間づくりやマナーを学ぶことができる。 ・仲間と協力して課題を解決することができる。
(前期中間考査)							
6-9	24	レクリエーション スポーツⅠ	キックベース ラグビー/タッチフット テニス/パークゴルフ アルティメット	○	◎	◎	・運動技能の構造や運動の学び方について理解することができる。 ・屋外における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
(前期期末考査)			(雨天時バレー、卓球)				
10-11	18	レクリエーション スポーツⅡ	テニボン インディアカ ドッチビー ミニバレー	○	◎	◎	・屋内における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
(後期中間考査)							
12-3	16	レクリエーション スポーツⅢ 家庭学習	ニュースポーツ	○	◎	◎	・日本で行われているニュースポーツや、世界各国で行われているニュースポーツを体験するとともに、オリジナルのニュースポーツを開発しようとする態度を身に付けることができる。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 6				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
芸術	音楽探究	2	選択授業		田中 俊幸	
教科書	なし					
補助教材	リコーダーライブラリー ミュージックノート					
目標	科目	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取って創造的な音楽活動の工夫をする。		・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。		・音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動をしようとする。 ・多様な音楽に対する理解を深め、創造的に鑑賞する。	
評価の方法	・演奏 ・ワークシート ・学習活動への参加状況や態度 ・実技試験		・演奏 ・ワークシート ・学習活動への参加状況や態度 ・実技試験		・発表 ・ワークシート ・学習活動への参加状況や態度 ・鑑賞	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	・導入 ・歌唱	・オリエンテーション ・発声練習 ・コールユープンゲン ・合唱曲（選択） ・実技試験（歌唱）	◎	◎	○	・発声の技能を身に付け、積極的に歌唱活動を行う。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
		(前期中間考査)					
6-8	12	・器楽	・ピアノ（和音） ・トーンチャイム ・リコーダーアンサンブル ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・様々な器楽の基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。 ・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。
		(前期期末考査)					
9-11	22	・器楽 ・作曲	・ピアノ ・作曲 ・演奏 ・実技試験（ピアノ）	◎	◎	○	・感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取って創造的な音楽活動の工夫をする。 ・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。
		(後期中間考査)					
12-3	20	・まとめ	・音楽発表	○	○	◎	・それぞれ技術に合ったアンサンブル譜を使用し、グループ活動を通して積極的に音楽活動に参加する。
		(後期期末考査)					

合計 70

3 年次		選択 3 8				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
芸術	演奏に親しむ	2	選択授業		田中 俊幸	
教科書	なし					
補助教材	「バイエル」					
目標	科目	演奏活動を通じて、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、音楽の諸能力を伸ばし、豊かな心情を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・演奏技術の知識・理解を深め、生涯にわたって音楽を愛好する心情を深める。 ・進路実現を目標に、演奏技術の習得を目指す。		・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。		・様々なジャンルの音楽に触れ、多様な音楽について探求し、演奏や鑑賞の態度を育成する。	
評価の方法	・演奏 ・ワークシート ・学習活動への参加状況や態度 ・実技試験		・演奏 ・ワークシート ・学習活動への参加状況や態度 ・実技試験		・発表 ・ワークシート ・学習活動への参加状況や態度 ・鑑賞	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	・導入 ・演奏 1	・楽譜の読み方 ・発声練習 ・コールユーブンゲン ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	◎	○	・基本的な楽譜の仕組みについて確認する。 ・発声の基本技能を身に付け、積極的に歌唱活動を行う。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
(前期中間考査)							
6-8	12	・演奏 2	・ピアノ演奏 ・実技試験（ピアノ）	◎	◎	○	・鍵盤の仕組みについて理解し、基本的な演奏能力を身につける。
(前期期末考査)							
9-11	22	・演奏 3	・ギター合奏 ・ギター弾き語り ・実技試験（ギター）	◎	◎	○	・ギターの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。 ・曲にふさわしい奏法や表現能力を身につける。
(後期中間考査)							
12-3	20	・まとめ	・発表	○	○	◎	・簡単な創作をグループで行い、創作や発表の基本を学ぶ。 ・演奏や鑑賞について、主体的に取り組む態度を育成する。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 8				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
芸術	色彩に親しむ	2	選択授業		安田 祐子	
教科書	高校美術 3（日本文教出版）					
補助教材	なし					
目標	科目	美術活動を通じて、美術を愛好する心情・感性理解を深める。また自己の表現のために、必要な技術を身につけ表現の幅を広げる。作品鑑賞の能力を伸ばす。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	表現の方法・違いを正確に理解し、自身の好むより高度な表現のために必要な技能を習得する。		自身が望む表現がなされているかを考察する。それまでの単なる模倣や繰り返しを避ける。表現のための工程の正誤を再考する。		主体的に課題に取り組んでいるか。これまでの学習をもとに、自由な、そして自信をもった表現ができているか。	
評価の方法	・ 作品 ・ 学習活動への参加状況や態度		・ 作品 ・ 学習活動への参加状況や態度		・ 作品 ・ 学習活動への参加状況や態度	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・平面構成	・オリエンテーション ・鑑賞 ・色彩と構成	○	◎	◎	・用具・用材の特徴を確認し理解する。 ・色に関する知識を深める。 ・画面の用い方、迫力・動きのある構成を考える。
(前期中間考査)							
6-8	12	・平面構成 ・油絵 (風景画)	・構成 ・鑑賞 ・デッサンと着色	◎	○	◎	・色同士の関係をより理解する。 ・魅力的に着色できる技能を身につける。 ・用具の正しい用い方を身につける。 ・遠近法を理解し風景を正確に写生する。
(前期期末考査)							
9-11	22	・油絵 (風景画) ・絵皿作り	・着色 ・鑑賞 ・下描きと着色	○	◎	◎	・色の混ざり方を理解し、思い通りの色を作り着色する。 ・色の違いで遠近感 (空間) を出す。 ・自由な発想でイメージし、絵皿上に表現する。 ・色にとらわれることなく魅力的に着色する。
(後期中間考査)							
12-3	20	・絵皿作り	・着色 ・塗装	○	○	◎	・色のかたちに変化を持たせ、画面にリズムをつくる。 ・丁寧に塗装して作品を完成させる。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 6				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
芸術	書道探究	2	選択授業		天満谷 貴之	
教科書	なし					
補助教材	新訂 ペン習字教本（教育出版）					
目標	科目	(1) 書の実現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のおよび美しさを感受し、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の実を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	(1) 書の実現の方法や形式、多様性などについて理解を深めることができる。 (2) 書の伝統や文化に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けることができる。		(1) 書のおよび美しさを感受し、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、書の実を味わい深く捉えたりすることができる。		主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、生活や社会を創造していく態度を養うことができる。	
評価の方法	・ 作品 ・ 自己評価シート ・ ワークシート		・ グループワーク ・ 作品 ・ ワークシート		・ 作品 ・ グループワーク ・ ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

○日常的なテーマ ●社会的なテーマ

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 漢字の書 1	特異な古典を学ぶ (磨崖の書・古縁)	◎	◎	◎	<知識・技能> ●中国の歴史的背景を踏まえ、様々な各地にある古典を考察し、その文字の魅力を感じながら、表現領域を広げることができる。
(前期中間考査)							
6-8	12	漢字の書 2	楷書と行書を比較 日本の書を学ぶ	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	<知識・技能> ○楷書と行書の特徴を比較しながら、その特徴を活かし臨書することができる。 <思考・判断・表現> ●ワークシートを活用しながら、日本における三筆・三蹟を学ぶことで、日本の伝統文化である書の変遷、書法を理解することができる。
(前期期末考査)							
9-11	22	仮名の書	書の伝統文化を学ぶ ・関戸本古今和歌集 ・本阿弥切本古今和歌集 仮名の構成を学ぶ ・継色紙・升色紙 ・寸松庵色紙	○	◎ ◎	◎ ◎	<知識・技能> ●日本の文字文化を支える「古筆」を学ぶことで、その美しさやよきを感じ、追体験しながら当時の美意識を探究する。 ●三色紙（散らし書き）をそれぞれ比較・考察しながら構成の美を感じ、普遍的な美の境地を探究する。
(後期中間考査)							
12-3	20	漢字仮名交じりの書	自らの言葉で、表現する 用具・用材の妙に触れる 生活空間に生きる書を創作する	◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ○	<思考・判断・表現> ○言葉の持つ意味を考え、それに調和するための要素を効果的に工夫しながら表現することができる。 <知識・技能> ●用具・用材を選定し、自らの意図に応じた効果的な表現ができる。 ●半切サイズを中心に、書を創作し互いに鑑賞し合いながら、感性の美を鑑賞することができる。 ●書がもたらす効用を考え、生活空間に生きる書を探究する。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 8			
教科		科目	単位数	学級編成	担当者
芸術		書に親しむ	2	選択授業	天満谷 貴之
教科書		なし			
補助教材		新訂 ペン習字教本（教育出版）			
目標	科目	（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 （２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の実を味わい捉えたりすることができるようにする。 （３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。		・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の実を味わい深く捉えたりしている。		・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート

年間計画			◎特に重視する ○重視する			○日常的なテーマ ●社会的なテーマ	
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション（硬筆） 筆を作ろう スポンジ篆刻	日常にある書を楽しむ 用具用材による変化を学ぶ 篆刻の基本を活かし、スポンジの素材で刻してみよう	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	<主体的に学習に取り組む態度> ●書の伝統文化を意識し、日常生活との関連や、書の効用について考察し、グループワークを通して学び合うことができる。 ○割りばしを活用し、筆の代用として文字を書くことで、毛筆との相違や効果を検証することができる。 ○カッターを活用し、石を切る感覚を得ながら、刃物の鋭角さや立体性などを感じることができる。
(前期中間考査)							
6-8	12	古代文字（甲骨）を刻す	彩玉ボードで、甲骨文字を刻してみよう。 毛筆で、甲骨文字を表現する	◎ ○	◎ ◎	◎ ◎	<主体的に学習に取り組む態度> ●甲骨文字を刻す際の、繊細な技術や緻密さを疑似体験し、先人達の叡智感受しながら、刻すことができる。 ○用具用材を考えながら、筆で書く際の要素を探究し、刃物と筆との相違や共通点を探ることができる。
(前期期末考査)							
9-11	22	墨（淡墨）を学ぶ 半紙と宣紙との違いを学ぶ 漢字仮名交じりの書と表具	磨墨で、墨の色を見よう 紙質による違いを味わおう	◎ ○	◎ ○	◎ ◎	<知識・技能> ○墨の濃度によって、滲みや色合い等の変化を感じながら、文字の表情や風趣を感じることができる。 <思考・判断・表現> ●ワークシートを活用しながら、様々な紙の状態を記録し、紙本来の持つ特徴を分析し、紙と墨が調和するタイミングや、奥ゆかしい風合いについて、その原理や工程理解することができる。 ●表具の技法を学び、日本の伝統文化に対する美意識を感じることができる。 ●詩の背景を想像し、自ら習得した技能を効果的に工夫しながら表現することができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	生活の書	毛筆・硬筆による小書き ・お祝い ・熨斗袋 ・お礼 手紙を書く ・礼状（挨拶）	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	<知識・技能><主体的に学習に取り組む態度> ●書や文字が社会の中でどのように生きているのかを考えたり、その役割を見出すなど、書道がもたらす効用を考えることができる。 <思考・判断・表現> ○言葉を深く理解し、それに調和する文字を丁寧に表現することができる。
(後期期末考査)							

3年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	クラス単位		伊藤 祐子 ・ 相馬 隆行 ・ 柴田 ゆうか	
教科書	MY WAY English CommunicationⅢ					
補助教材	・ユメタン1、・即戦ゼミ11、・Reading Gym発展、・Listening Pilot3					
目標	科目	①英語学習を通じて、場面や状況、背景、相手の表情や反応を踏まえ、「相手のことを理解する」「自分の意見をきちんと伝えられる」社会人となる。 ②住んでいるまちの産業や地域振興などにおける現状と課題について理解し、協同的な学習を通じて地域活性化に対して主体的に解決策を発信できる社会人となる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・英語の学習を通して、言語や文化、社会情勢の知識が身についている。 ・社会性の高い文章の構成や日常的に使用される文法の違いを理解している。		・読んだり聞いたりしたことを社会的な話題と結びつけながら（反対意見も踏まえた上で）、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝えることができる。		・積極的な態度で言語活動に参加している。 ・他者と協同して粘り強く答えのない課題に取り組んでいる。 ・自分の4技能5領域の得意不得意を把握し、学習を調整できる。	
評価の方法	・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査		・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査		・パフォーマンステスト ・課題等	

年間計画			◎特に重視する ○重視する			○日常的なテーマ ●社会的なテーマ	
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	RS1～RS11	英語を正しく読む パフォーマンステスト	○ ○	◎ ◎	◎ ◎	<読むこと> ○英語話者に向けて書かれた実用的な文章（ガイドブックや広告等）から必要な情報を得ることができる。 <書くこと> ●外国の文化や生活など簡単な紹介や説明を読み、概要を理解することができる。（3文要約を作る）
前期中間考査							
6-8	24	Lesson 1-6	英語の文章構成を理解しよう パフォーマンステスト	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	<聞くこと> ○日常生活の身近な話を理解することができる。（セールの情報、地域のイベントなど） <話すこと（発表）> ●簡単なメモがあれば、社会的な話題と結びつけながら読んだり聞いたりしたことと自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝えることができる。
前期期末考査							
9-11	44	Lesson 7-12	社会的な内容の論説文を読む（教育、環境、言語、科学） パフォーマンステスト	◎ ○	◎ ◎	◎ ◎	<話すこと（やりとり）> ●簡単なメモがあれば、相手の意見を踏まえた上で、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝え合うことができる。（ディベート活動） <話すこと（やりとり）> ●簡単なメモがあれば、相手の意見を踏まえた上で、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝え合うことができる。（ディベート活動）
後期中間考査							
12-3	40	Lesson 13-14	伝えることを意識した読解に挑戦する（要約文、意見文、ディスカッション）	◎	◎	◎	<書くこと> ●読んだり聞いたりしたことを社会的な話題と結びつけながら（反対意見も踏まえた上で）、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝えることができる。
(後期期末考査)							

合計 140

3 年次		選択 3 5				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
外国語	英語会話	2	選択授業		相馬 隆行・柴田 ゆうか	
教科書	My Passport English Conversation (文英堂)					
補助教材	TAGAKI Advanced 2 Around the World (mpi)					
目標	科目	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をもち、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身に付ける。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	情報伝達のために必要な語彙や文法知識を習得し、伝えたい情報をまとめることができる。		自らの発信のために必要な情報を的確に理解・収集し、まとめることができる。また集めた情報を元に、相手に伝わりやすい表現や構成で発信することができる。		他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・小テスト（語彙、文法）		・ライティングワーク（英作文課題） ・パフォーマンステスト		・ペアワークやグループワーク	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	Lesson 1	・紹介するとき ・職業を尋ねるとき	◎	○	○	＜話すこと（やりとり）＞ ・英語でのやり取りの場面例から、必要な表現・語彙を習得することができる。 ＜話すこと（発表）＞ ・既習事項を踏まえ、テーマに沿った内容を、テンプレートを元に英語を用いて発信できる。
		Lesson 2	・依頼するとき ・時間を尋ねるとき				
		(前期中間考査)					
6-8	12	Lesson 3	・行き方を尋ねるとき ・所要時間を尋ねるとき	○	◎	○	＜話すこと（やりとり）＞ ・自分の意見を即時にかつ簡潔に口頭で相手に伝えることができる。 ＜聞くこと＞ ・話し手の発信に対し、相づちや質問を交えて適切に理解することができる。
		Lesson 4	・希望を伝えるとき ・提案するとき				
		(前期期末考査)					
9-11	22	Lesson 5	・注文するとき ・料金を尋ねるとき	○	◎	○	＜書くこと＞ ・自分の発信のための的確な情報収集をし、わかりやすい構成で内容をまとめることができる。(TAGAKI) ＜話すこと（発表）＞ ・英語による効果的なプレゼンテーションを行うことができる。(TAGAKI)
		Lesson 6	・場所を尋ねるとき ・アドバイスをするとき				
		Lesson 7	・場所を尋ねるとき ・アドバイスをするとき				
(後期中間考査)							
12-3	20	Lesson 8	・相手の様子を探るとき ・言い換えるとき	○	◎	○	
		Lesson 9	・誘うとき ・念を押すとき				
		Lesson 10	・好ましくないことを伝えるとき ・理由を尋ねるとき				
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 5				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
外国語	英語応用 δ	3	選択授業		柴田 ゆうか	
教科書	なし					
補助教材	TREASURE HUNT 4 New Edition					
目 標	科 目	語彙力や読解力などの総合的な英語力を身につけ、実践的な問題を解くことができる力の向上を図る。 日常的、社会的なテーマについて自分の考えを述べるができるようになる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	言語や文化、社会情勢の知識を身につける。 文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。		英文の意味や内容を速く、的確に把握する。 各文法項目について理解・整理し、伝えたいことを英語で表現する。		他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査		・問いに対する応答 ・定期考査 ・文法項目を用いた英作文		・ペアワークやグループワーク ・設問への取り組み状況 ・課題提出	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	24	UNIT 1～4	人物・時制 歴史・助動詞 古代文明・受動態 文化史・不定詞	◎	○	◎	・適切な時制で表現することができる。 ・助動詞の用法や意味を判断し、表現することができる。 ・受動態の文構造を理解し、適切に書き換えることができる。 ・不定詞の用法を整理し、場面に応じて表現することができる。
前期中間考査							
6-8	18	UNIT 5～7	古代史・不定詞・動名詞 科学・不定詞・動名詞 広告・分詞	◎	○	◎	・動名詞を含んだ表現を整理することができる。 ・現在分詞、過去分詞を用いて表現することができる。 ・分詞を理解し、適切に表現することができる。
前期期末考査							
9-11	33	UNIT 8～12	物語・関係詞① 行動心理・関係詞② 家族愛・比較① 文化史・比較② 歴史・仮定法①	◎	○	◎	・関係代名詞、関係副詞の特徴を理解し、表現することができる。 ・比較表現を用いて比較級、最上級を表現することができる。 ・仮定法を理解し、時制に応じて表現することができる。
後期中間考査							
12-3	30	UNIT 13～15	論説・仮定法② 動物・前置詞 論説・接続詞	◎	○	◎	・前置詞を理解し、表現することができる。 ・接続詞を使い分け、活用することができる。
(後期期末考査)							
合計	105						

3 年次		選択 3 3			
教科	科目	単位数	学級編成		担当者
外国語	英語発展 α	3	2 展開		伊藤 祐子
教科書	なし				
補助教材	共通テスト英語読解トレーニング、Reading Gym、Listening ACE 10 改訂版、リスニング分野別10min.				
目標	科目	社会的な話題を読み、聞くことを通じて自分の考えを表現することができる。既習の語句や文法事項を応用し、書いたり話したりすることができる。英語学習の基礎を固め、実践的英語力の養成を目指す。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。		読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを分かりやすく伝える。英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。		自分の意見を伝えるために他者とコミュニケーションを図ろうとする。積極的な態度で言語活動に参加する。
評価の方法	・小テスト ・定期考査		・定期考査（初見英文読解、リスニング） ・ライティングワーク ・定期考査（英作文など）		・ペアワークやグループワーク

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	24	第1～24回 第1～29回	速読トレーニング リスニング分野別10min.	◎	○	○	＜読むこと＞ ・文法事項に注目しながら、英文の構造を理解し、読解することができる。
		前期中間考査					
6-8	18	第1～10回 第1～10回	英語読解トレーニング Listening ACE10	◎	○	○	＜読むこと＞ ・英文読解により質問に答えるために必要な情報を得ることができる。 ＜話すこと（発表）＞ ・読解した英文の各テーマについて意見や考えを述べることができる。 ＜聞くこと＞ ・英文を聞き取り、内容を把握し、設問に答えることができる。
		前期期末考査					
9-11	33	第11～20回 第11～20回	英語読解トレーニング Listening ACE10	○	◎	◎	＜読むこと＞ ・英文読解により質問に答えるために必要な情報を得ることができる。 ＜話すこと（やりとり）＞ ・読解した英文の各テーマについて意見や考えを伝え合うことができる。 ＜書くこと＞ ・英文を聞き取り、内容を把握し、設問に答えることができる。
		後期中間考査					
12-3	30	第21～24回 第21～26回	英語読解トレーニング Listening ACE10	○	◎	◎	
		(後期期末考査)					

3 年次		選択 3 7				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
外国語	英語研究 β	2	選択授業		相馬 隆行	
教科書	なし					
補助教材	・ CROSSBEAM S2					
目標	科目	基本的な語句や文を用いて場面に応じた表現を工夫しながら書いたり話したりすることができるようになる。日常的なテーマや社会的な話題について、書き手や話し手の意向を理解し、自分の考えを述べることができるようになる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。積極的な態度で言語活動に参加する。		・ 読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを分かりやすく伝える。 ・ 英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。		学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。	
評価の方法	・ ペアワークやグループワーク ・ 設問への取り組み状況		・ スピーキングテスト ・ ライティングワーク ・ 定期考査（英作文、初見英文読解、リスニングなど）		・ 小テスト ・ 定期考査 ・ 提出ノート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	Chapter1 Chapter2 Chapter3	・ 歴史、助動詞／態 ・ 文化、準動詞 1 ・ 文化、比較 1	◎	◎	○	<読むこと> ・ 英語で書かれた文章特有の構成を知り、基本的な語彙、文法を踏まえて、読解に活かすことができる。 <書くこと> ・ 各テーマについて概要や筆者の意図を読み取り、自分の考えを述べることができる。
前期中間考査							
6-8	12	Chapter4 Chapter5 Chapter6	・ スポーツ、比較 2 ほか ・ 社会、時制 1 ・ 歴史、時制 2	◎	◎	○	<読むこと> ・ 各テーマについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 <話すこと（やりとり）> ・ 各テーマについて自分の意見や考えを述べることができる
前期期末考査							
9-11	22	Chapter7 Chapter8 Chapter9 Chapter10 Chapter11	・ 言語、準動詞 2 ・ 人物、受動態／ほか ・ 生活、準動詞 3 ・ 科学、構文／否定 ・ 生物、接続詞／代名詞	○	◎	◎	<読むこと> ・ 各テーマについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・ 文章構成から論理の流れを理解することができる。 <書くこと> ・ 日常的なテーマや社会的な話題について自分の意見や考えを論理的な構成で述べるすることができる。
後期中間考査							
12-3	20	Chapter12 Chapter13 Chapter14 Chapter15	・ 科学、分詞構文ほか ・ 医療、関係詞 ・ 環境、仮定法 1 ・ 物語、仮定法 2	○	◎	◎	
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 8				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
家庭	保育	2	選択授業		対島 珠望	
教科書	なし					
補助教材	なし					
目 標	科 目	2 年次で学んだ「家庭基礎」の既習事項を元に、将来親（保育者）になることを意識し、特に子どもの遊びと言語表現活動についてグループ学習や実習を通して、知識と技術の習得を図り、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	子供の遊びや言語表現活動の意義や役割を理解するとともに、生活を充実向上させるために必要な基礎的・基本的な技術が身に付いている。		子供の遊びと言語表現活動について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め適切に判断し、工夫し創造する能力が身に付いている。		子供の遊びや言語表現活動について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	
評価の方法	・創造的課題に対する取組み状況 ・小テスト ・実技試験 ・実習における達成度		・発表や発言の状況 ・グループ活動・課題の取組み状況 ・相互評価		・授業中の取組み状況 ・課題への取組み状況 ・提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

○日常的なテーマ ●社会的なテーマ

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション	オリエンテーション					・保育の意義と重要性に関心を持つことができる。
		子供の発達、遊び	・子供の発達と遊びの重要性 ・物語の創作	◎ ○	○ ◎	◎ ○	・子供のものの見方・感じ方を理解し、独特の世界観について深く考えることができる。 ・子供の発達を意識した物語の創作を通して、子供の創造性を育てることの大切さを理解することができる。	
前期中間考査								
6-8	12	子供の発達、遊び	・言語表現活動の意義と手法 ・名札作り (保育体験)	○ ◎ ○	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	・言語表現活動に興味・関心を持ち、適切な活用ができる。 ・子供に安全な名札作りを工夫し、製作することができる。 ・子供との触れ合いを通して保育者の役割を考えることができる。	
		前期期末考査						
9-11	22	生活をつくる	年中行事（グループワーク） ・年中行事とは ・年中行事と子供のかかわり (食事作り) (伝承遊び体験)	○ ◎ ◎ ○	◎ ○ ○ ○	○ ○ ◎ ◎	・年中行事について意義と役割を考えることができる。 ・年中行事と子供のかかわりについて、行事食や伝承遊び体験を通してその重要性を理解することができる。 ・子供に必要な栄養や量について理解し、行事食を含む簡単な調理ができる。 ・遊びの援助ができるようになる。	
		後期中間考査						
12-3	20	生活をつくる	・プレゼンテーション ・造形技法 ・児童文学	○ ○ ◎	◎ ○ ○	○ ◎ ○	・課題に対する自分の考えを表現し思考を深めている。 ・子供の造形・描画表現の発達を理解し、子供とともに作る手作り遊具の大切さを意識した活動ができる。 ・児童文学の歴史について理解を深めることができる。	
		後期期末考査						
合計	70							

3 年次		選択 3 7				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
家庭	食育研究	2	選択授業		對島 珠望	
教科書	なし					
補助教材	基礎から学ぶ 新編 ビジュアルクッキング (教育図書)					
目標	科目	2 年次で学んだ「家庭基礎」の既習事項を元に、日常食について興味・関心を持ち、食事作りを通して、将来の生活に役立てるための知識や態度を育てる。また、知識における「食」について学ぶことで、地域の産業に興味を持ち、特産物などを活かした郷土食及び行事食について理解し、伝承に積極的に取り組む態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	日常食や郷土食、伝統食の意義や役割を理解し、地域とのつながりを通して、生活を充実向上するために必要な基本的・基礎的な知識と技術を身に付けている。		日常の食事や郷土食の伝承について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。		食について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	
評価の方法	・創造的課題に対する取り組み状況 ・小テスト ・実技試験 ・実習における達成度		・発表や発言の状況 ・グループ活動・課題の取り組み状況 ・相互評価 ・想像的課題に対する取り組み		・授業中の取り組み状況 ・課題への取り組み状況 ・提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

○日常的なテーマ ●社会的なテーマ

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達目標
4-5	16	毎日の生活をつくる	各家庭の食事 ・調理の基礎 ・1 日の食事 ・お祝い時の食事 ・行事の食事 ・年末年始の食事	◎	◎	○	・調理用語や調理の基本について理解することができる。 ・家庭における食事の意義や伝統食の必要性、役割について理解することができる。 ・お祝い食の在り方について調べたり考えたりすることができる。 ・各家庭の季節の行事と食事の関係を調べ、食事内容について考察することができる。 ・年末年始の食事について聞き取りや調べ学習により伝統食について理解を深めることができる。
前期中間考査							
6-8	12		・食生活の特徴と郷土料理 ・特産物を使った料理、講話、実演指導、調べ学習、パワーポイントによる発表	◎	◎	○	・函館市やその近郊における食育の歴史や、どのような食文化が伝承されてきたかを考えることができる。 ・特産品を使った料理について聞き取りや調べ学習により伝統食について理解を深めることができる。
前期期末考査							
9-11	22		栄養と調理 献立作成 日常食の調理 ・調理実習 (朝食) ・調理実習 (夕食) ・調理実習 (お菓子) ・調理実習 (お弁当)	◎	○	◎	・食品の栄養的特質や調理性を活かした調理法について理解することができる。 ・朝食の大切さを知り、短時間でできる朝食作りを考えることができる。 ・日本人の食事摂取基準を考えながら、夕食の献立を考え調理することができる。 ・お菓子の役割を知り、和・洋菓子について簡単な調理ができる。 ・お弁当の役割を考え、限られた時間内に調理することができる。
後期中間考査							
12-3	20		行事食の調理 ・調理実習 (お盆、雑煮・鯨汁) まとめ	◎	○	◎	・地域で食されている精進料理や正月料理について作り方を覚え、伝承することができる。
後期期末考査							
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
情報		情報発展	2	選択授業	本間 至 ・ 岡田 敏嗣	
教科書		なし				
補助教材		なし				
目標	科目	1 年次で学習した「社会と情報」で使用した文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアを用いて、日常生活で活用する技能を向上させる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	各ソフトウェアの特徴を理解し操作できる。		収集した情報や経験から（インプット）、各自で考えた（思考）内容をソフトウェア上に表現し、分りやすく相手に伝えることができる（アウトプット）。		自ら進んで、情報を収集し、各自の作品やプレゼンテーションに活かそうとすることができる。	
評価の方法	レポート提出 課題提出		プレゼンテーション 課題提出		授業態度 プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	文書作成 1	○お知らせの作成 ○新聞の作成 (DTP) ○問題演習	◎ ◎	◎	◎	・文書処理ソフトウェアの基本を活用できる。 ・文書処理ソフトウェアを活用して新聞を作成できる。 ・問題演習で 80% 以上得点できる。
		(前期中間考査)					
6-8	12	表計算 1 プレゼンテーション 1	○グループ発表 ○クイズ作成 ○問題演習 ○グループ発表 ○本の紹介	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ○	○ ◎ ◎	・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。 ・表計算ソフトウェアを活用できる。 ・演習問題で 80% 以上得点できる。 ・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用できる。
		(前期期末考査)					
9-11	22	文書作成 2 表計算 2	○グループ発表 ○問題演習 ○問題演習	◎ ◎	○	◎ ◎	・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。 ・問題演習で高得点できる。 ・問題演習で高得点できる。
		(後期中間考査)					
12-3	20	プレゼンテーション 2	○作品制作 ○グループ発表		○ ◎	◎ ○	・プレゼンテーションソフトウェアを高度に活用できる。 ・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。
		(後期期末考査)					

合計 70

3 年次		選択 3 6				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者		
情報	情報探究	2	選択授業	本間 至 ・ 岡田 敏嗣		
教科書	なし					
補助教材	なし					
目標	科目	ホームページ作成、プログラミング、画像処理等を学び、情報発信の基礎を学ぶ。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	各ソフトウェアの特徴を理解し操作できる。		収集した情報や経験から（インプット）、各自で考えた（思考）内容をソフトウェア上に表現し、分りやすく相手に伝えることができる（アウトプット）。		自ら進んで、情報を収集し、各自の作品やプレゼンテーションに活かそうとすることができる。	
評価の方法	レポート提出 課題提出		プレゼンテーション 課題提出		授業態度 プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	画像処理	○画像処理の基本 ○動画作成 ○グループ発表	◎ ◎	◎	○	・写真を加工し、画像処理の基本操作ができる。 ・動画作成の基本操作ができる。 ・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。
(前期中間考査)							
6-8	12	ホームページ作成 プログラミング 1	○ホームページ作成の基礎 ○バーチャル水族館（他） ○グループ発表 ○プログラムの基本	◎ ◎	◎ ◎	○	・ホームページビルダーソフトウェアの基本操作ができる。 ・ソフトウェアを活用しオリジナルの作品を作成できる。 ・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。 ・スクラッチでフローチャートを理解する。 ・スクラッチの基本操作を理解する。 ・スクラッチで簡単なプログラムを組める。 ・スクラッチを理解し変数を操作できる。
(前期期末考査)							
9-11	22	プログラミング 2 VR/AR/MR	○グループ発表 ○様々なプログラム ○Society5.0	◎ ◎	◎	○	・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。 ・パイソン他のプログラム言語の基本活用ができる。 ・現代社会とプログラムの役割に気付く事ができる。
(後期中間考査)							
12-3	20		○グループ発表		◎	○	・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。
(後期期末考査)							

合計 70